

<政策>

政策目標	スポーツの振興
概要	世界共通の人類の文化の一つであるスポーツの振興により、生涯スポーツ社会の実現に向けて地域におけるスポーツ環境を確保するとともに、我が国の国際競技力を向上させ、子供から大人まで心身ともに健全な明るく豊かで活力のある社会を実現する。



<施策>

施策の概要及び達成目標のどこを達成しようとしているのか分かるよう、該当部分を下線・太字で表記する。

達成目標のうち、当該事業が具体的にどの達成目標にあたるのか分かるよう、該当部分を灰色に塗りつぶす。

施策目標	子供の体力の向上
施策の概要	子供のスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、子供がスポーツを楽しむことができる環境を整備し、そうした取組の結果として、今後10年以内に子供の体力が昭和60年頃の水準を上回る。
達成目標1	子供のスポーツ機会の充実を図り、その結果として、今後10年以内に子供の体力が昭和60年頃の水準を上回ることができるよう、今後5年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとする。
達成目標2	教員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実、 <b>運動部活動の活性化等により、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにする。</b>



<事業>

施策の達成目標と当該事業の目的・事業概要の関連を整理し、また当該事業の成果と上位施策との関係を明確にする。

当該事業の目的・概要・アウトカム・アウトプットのうち、どこが特に関連しているか分かるよう、該当部分を下線・太字で表記する。

事業名	運動部活動指導の工夫・改善支援事業	
事業の目的	運動部活動の活性化により、子供たちがスポーツの楽しさや喜びを味わえるようになり、その結果、子供の体力向上につなげること。	
事業概要	<p><b>【スポーツ医・科学等を活用した高度な運動部活動指導体制の構築】</b>  <u>教員以外のスポーツ医・科学の知見を持った外部指導者等の参画による子供たちへの技術指導の充実とその指導を定着させる取組について実践研究を行う。</u>  <b>【多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善の実践】</b>  <u>運動部活動の選択の幅を広げるための工夫改善について検討し、運動部活動運営の工夫改善について、実践研究を行う。</u>  <b>【運動部活動指導者の指導者養成事業】</b>  <u>運動部活動指導者の資質向上を目的として、競技種目別研修、習熟度別研修を実施する。</u>  <b>【運動部活動指導者サミットの開催】</b>  <u>運動部活動関係者が参集して、運動部活動の指導に関する研究協議等を実施し、情報共有を図る。</u></p>	
本事業と施策の関係	運動部活動は、子供がスポーツ機会の確保について中心的な役割を果たしていることから、運動部活動の活性化により、子供たちがスポーツの楽しさや喜びを味わえるようになることは、子供の体力の向上につながるものと考えられる。	
アウトカム	定量的な成果目標①・②	実施校における「運動やスポーツをすることが好き」である生徒(①中学2年生男子・②中学2年生女子)の割合が全国平均を上回る。 ※平成28年度～30年度の成果実績を踏まえ、目標最終年度の目標を設定する。本事業の成果目標は、以下同じ。
	成果指標①・②	実施校における「運動やスポーツをすることが好き」である生徒(①中学2年生男子・②中学2年生女子)の割合 ※数値は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によるもの。平成28年度に成果指標を見直したため、成果実績は次年度のレビューから記載する。本事業の成果指標は、以下同じ。
	定量的な成果目標③・④	実施校における「自分の体力に自信がある」生徒(③中学2年生男子・④中学2年生女子)の割合が全国平均を上回る。
	成果指標③・④	実施校における「自分の体力に自信がある」生徒(③中学2年生男子・④中学2年生女子)の割合
	定量的な成果目標⑤・⑥	実施校における生徒(⑤中学2年生男子・⑥中学2年生女子)の「体力合計点」が全国平均を上回る。
	成果指標⑤・⑥	実施校における生徒(⑤中学2年生男子・⑥中学2年生女子)の「体力合計点」
アウトプット	スポーツ医・科学等を活用した高度な運動部活動指導体制の構築実施都道府県・市区町村数	
	多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善の実施都道府県・市区町村数	
	運動部活動指導者の指導者養成事業の実施都道府県・市区町村・団体数	
本事業の成果と上位施策との関係	運動部活動の活性化により、子供たちがスポーツの楽しさや喜びを味わうことで運動習慣が身につく、継続的に運動するようになることが、子供の体力の向上につながるものと考えられる。	